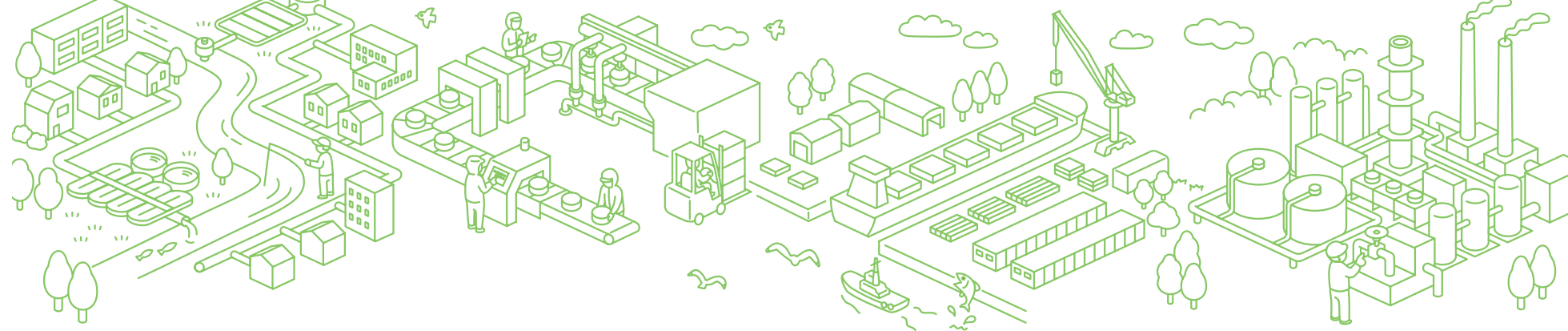


J-006 = 00



Sustainability Action Book

サステナビリティ アクションブック



株式会社キッツ

経営企画本部 サステナビリティ推進室

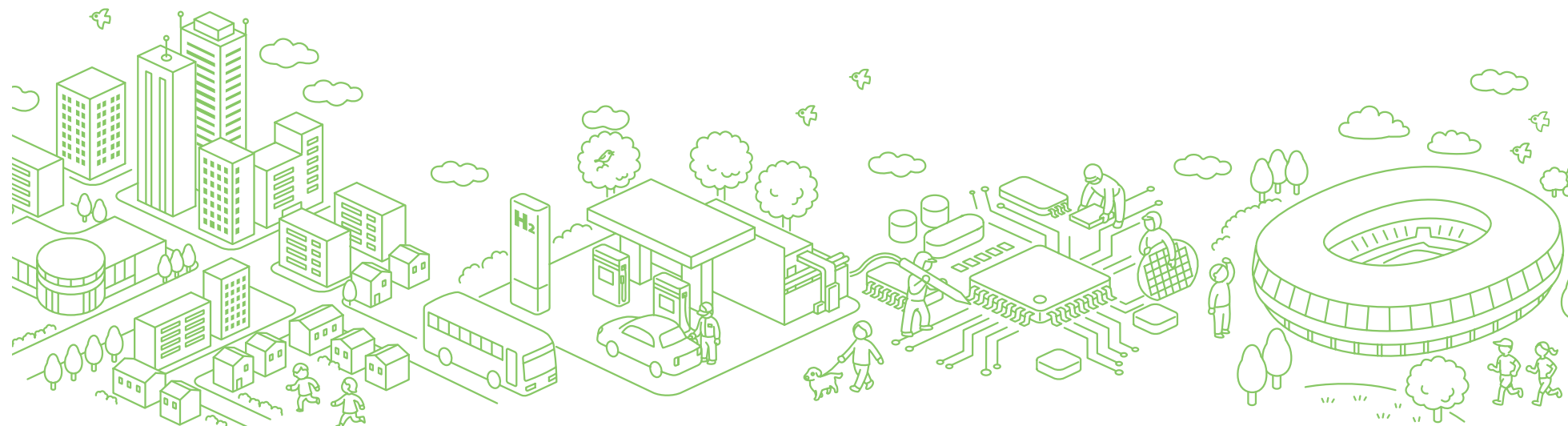
MAIL : Sustainability@kitz.co.jp

HP : <https://www.kitz.co.jp/sustainability/>



▲サステナビリティサイト

2503®YD



つくる未来 のこす未来

はじめまして、キッツです。

突然ですが皆さんは、バルブがどこに使われているか知っていますか？

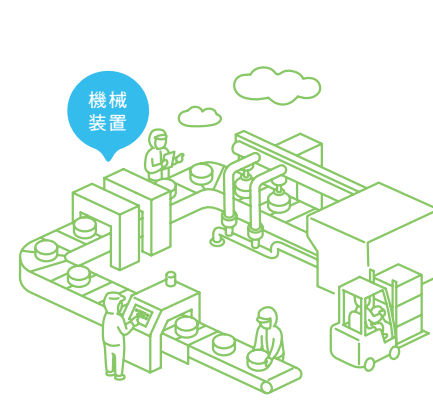
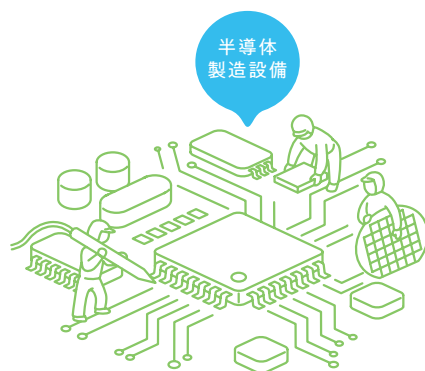
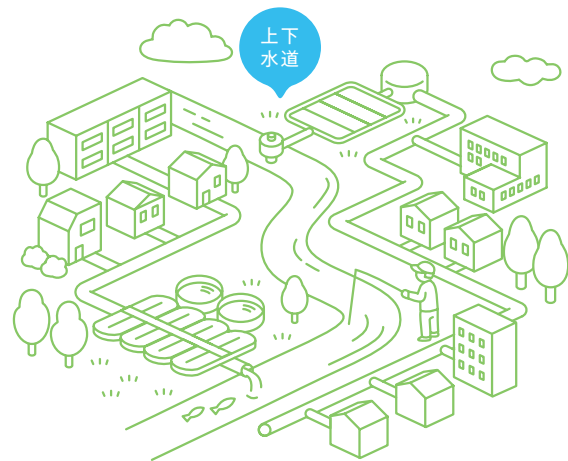
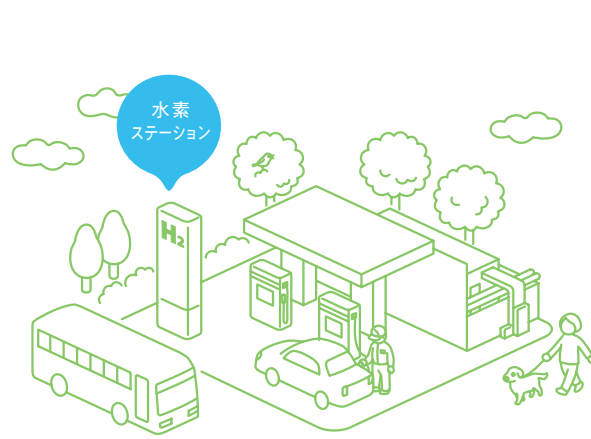
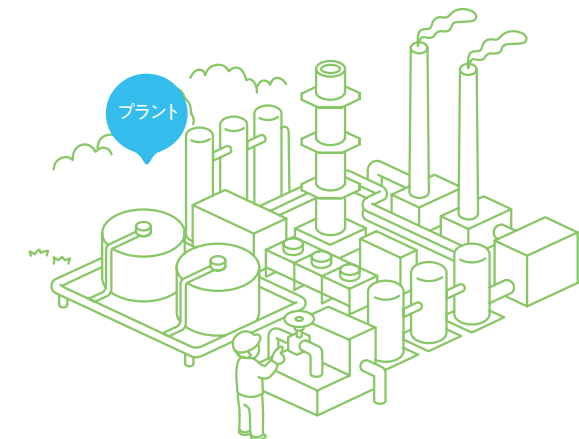
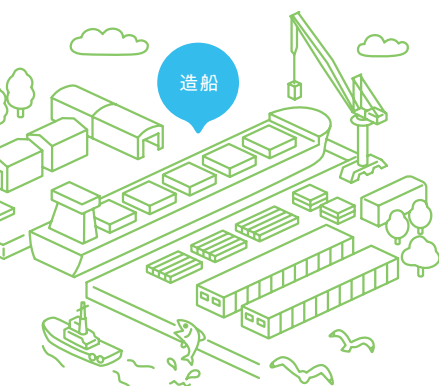
私たちは人々のゆたかで安心できる暮らしを守りたい一心で
創業から70年以上にわたりバルブ事業を通して
社会インフラを支え続けてきました。

それが目に見えるところでも、たとえ見えないところでも。

これからも社会にとって欠かせない存在であり続けるために。

そして、私たち自身が成長し続ける企業であるために。

私たちは、サステナビリティへの取り組みに挑戦していきます。



会社概要 | Corporate Profile

商号	株式会社キッツ
本社	東京都港区東新橋一丁目9番1号 東京汐留ビルディング
代表者	取締役 代表執行役社長 河野 誠
設立年月日	1951年1月26日
社員数	5,415人(連結2024年12月31日現在)
売上高	1,720億円(連結2024年12月期)
連結子会社数	33社(2025年1月1日)



▲コーポレートサイト

キッツ宣言

KITZ' Statement of Corporate Mission

わたしたちは、
流体制御技術と材料開発で社会インフラを支え、
ゆたかな地球環境と持続可能な未来を創造していきます

*We strive to build a robust global environment and
sustainable future by supporting societal infrastructure
through our advancements
in fluid control technologies and materials.*

INDEX

- 02 はじめまして、キッツです。
- 03 会社概要・キッツ宣言
- 04 トップメッセージ
- 05 サステナビリティ 基本方針・スローガン
- 06 サステナビリティ経営の全体像
- 08 水素あるところに、キッツ
- 10 Design Future with Water
- 12 環境 | 環境長期ビジョン 3ZERO
- 14 環境 | カーボンフットプリント
- 15 環境 | 持続的な成長に向けた技術戦略
- 16 社会 | 人材力の強化
- 17 社会 | DE&I 推進活動
- 18 ガバナンスの強化
- 19 須崎選手との歩み

編集室だより

本誌をご覧いただく皆様に、私たちのサステナビリティへの取り組みを分かりやすく伝えることを念頭に、一丸となって編集にあたりました。本誌がきっかけとなり、持続可能な未来を皆様と共創していくための一助となれば幸いです。



キッツグループに受け継がれてきた 「迅速果敢な実践力」を未来につなぎ、 人財と会社双方の持続的な発展を—

私たちはいつの時代においても、確かな品質を守りながら、社会インフラを支え、ゆたかな地球環境と持続可能な未来の創造を目指してきました。

2030年に向け、長期経営ビジョン『Beyond New Heights 2030「流れ」を変える』を掲げ、社会から求められるサステナビリティへの対応を加速させています。

たとえば、環境面での取り組みでは、再生可能エネルギーの導入や燃料転換により CO₂ 排出量の削減を図り、各拠点での電力消費の抑制に努めています。製造過程においては、水資源の有効活用や廃棄物の削減等を推進しています。

新たな成長領域では、水素や水処理の分野における事業拡大と社会課題解決に取り組んでいます。強い意志と行動力を持って新たな時代の要求に対応し、世の中から求められる技術と製品・ソリューションを提供することで、未来の創造とその維持に貢献できるよう、常に高い目標を持って活動し続けます。

これらの活動を支えているのは、ほかでもない「人財」です。社員一人ひとりがいきいきとやりがいを持って働くことができ、成長を実感できる会社にしていくために、活躍の場とチャレンジできる環境を整えていきます。

取締役
代表執行役社長 | 河野 誠

OUR VISION

サステナビリティ基本方針

キッツグループは、企業理念である「キッツ宣言」の実現に向けて、

01.

事業を通じた社会課題の解決に取り組み、企業価値と社会価値の向上を図る

02.

効率的で、公正かつ透明性の高い企業経営を実現し、社会から信頼される企業となる

03.

あらゆるステークホルダーとの対話により、強固な信頼関係を構築する

サステナビリティスローガン

サステナビリティ基本方針を実現するためのキッツグループ全社員の道しるべとなります。

つくる未来 のこす未来

つくる未来
Create the Future

キッツグループは、「誠実」に行動し、そして「変革」を恐れずチャレンジし、地球と人にやさしい循環型社会の実現を目指して、新しい未来を創造します。



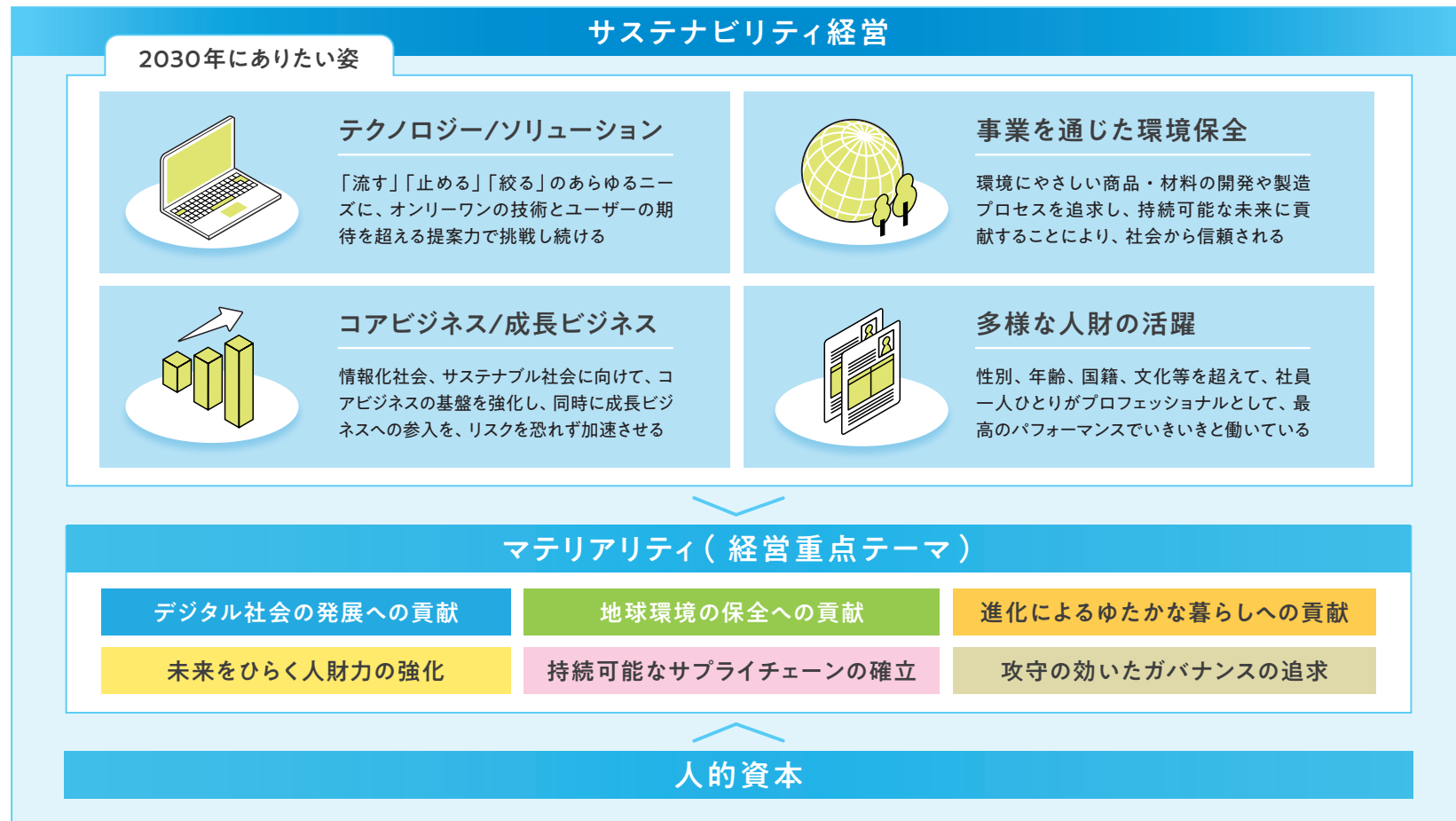
のこす未来
Preserve the Future

キッツグループは、限りある地球資源と人の暮らしを守り続け、私たちが次の世代にのこすことのできる社会の実現に努めます。

SUSTAINABILITY

サステナビリティ経営に取り組むにあたり、2030年にありたい姿を設定し、それに向けた優先すべき経営重点テーマであるマテリアリティを定めています。これらを実現するには、すべてを支える存在として人財の活躍が不可欠であると考えています。

企業理念(キッツ宣言)・長期経営ビジョン・行動指針



事業環境の変化や中長期的な将来予測を踏まえ、マテリアリティの見直しを行いました。事業成長につながるテーマと経営基盤を支えるテーマとに分類した6つのマテリアリティを定めています。



事業環境の変化や中長期的な将来を踏まえたマテリアリティの見直しを通じ、改めて事業とサステナビリティを一体化させることの重要性を実感しました。キッツ宣言を実践することこそが、キッツのサステナビリティ経営そのものです。長年培ってきた流体制御技術と材料開発で社会インフラを支え、社会に貢献し続けることが持続的な成長につながります。今後も積極的に私たちのサステナビリティへの取り組みを皆様へお伝えしていきます。



経営企画本部
サステナビリティ
推進室長
及川 恵美子

VOICE

KITZ Group × Energy

カーボンニュートラル社会の実現に向けた水素サプライチェーンの構築や、使用時にCO₂を排出しない水素エネルギーの利活用が広がっています。バルブはそのプロセスの中で流体を制御するという重大な役割を担っています。

2008年、キットは超高压水素用バルブの開発を開始しました。今、私たちは長年培ってきた流体制御技術を集結し、水素社会を支えるエンジニアリング技術で社会に貢献しています。

VOICE

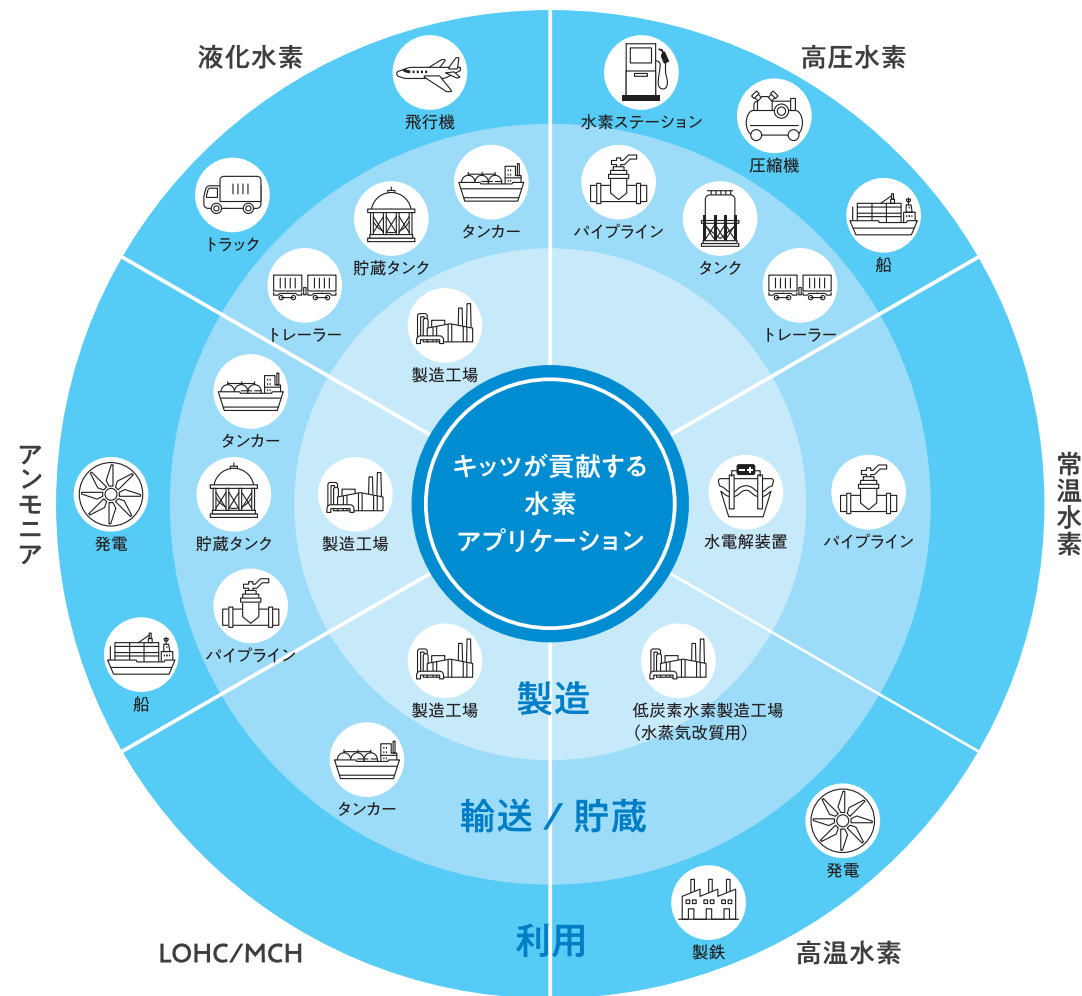
水素ビジネスユニット長
渡邊 統



私たちのチームのメンバーは、水素事業を通じて地球規模の持続可能な社会の実現に貢献している自覚を持ち、皆やりがいを持って取り組んでいます。

水素の市場は年々拡大しており、これからもその動きは続くと考えられています。それはつまり、皆様にとって水素がより身近な物質になるということ。水素の取り扱いが初めてのお客様にも「キットに任せれば大丈夫!」と安心していただけるよう、さらなる技術の向上を目指します。

水素あるところに、キット



■ 街に広がる水素の世界

あらゆるニーズに対応するトータルソリューションを提供

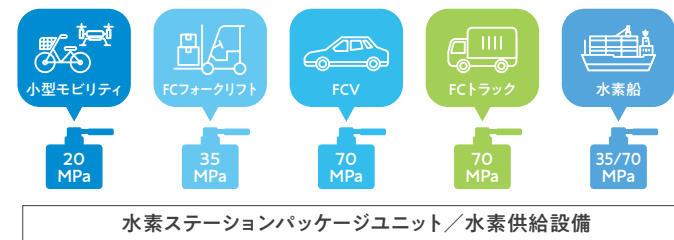
2050年のカーボンニュートラル達成に向けて、水素社会実現への機運が高まっています。私たちは、乗用車、バスやトラック、船などの多様な水素モビリティや、再エネ由来の電力を活用して水素をつくるP2G(Power to Gas)の導入を検討するお客様向けに、水素ステーションパッケージユニット/水素供給設備をご用意しています。



キット長坂工場水素ステーション



超高压水素用バルブ



■ 技術力の高さ

マイナス253度の世界に挑むスペシャリストたち

水素は宇宙で最も小さいと言われる分子で、封止が大変困難な気体です。また、水素社会の実現には海外からの大量輸送を可能にする液化水素(液体水素)の存在が欠かせません。しかし、水素が液化するのはマイナス253度という極低温の条件下。キットでは、水素のスペシャリストたちが最先端の技術を用いて、これらの過酷な条件下で使用される液化水素用バルブの技術の開発を行っています。



大口径液化水素用バルブの開発

■ エネルギーの地産地消へ

キットの水素事業と地域連携



2022年、キットは山梨県とグリーン水素の利用に関する基本合意書を締結しました。山梨県北杜市にあるキット長坂工場では、地域でつくられたグリーン水素を、燃料電池車と燃料電池フォークリフトの燃料として利用しています。

異常気象への対応・災害支援（水道インフラ）

可搬型浄水装置アクアレスキュー

アクアレスキューは、キッツグループが長年携わってきた小規模浄水施設における浄水装置の運転ノウハウと小型化技術を集約した可搬型の浄水装置です。災害時に運用できる浄水装置が欲しいとのニーズに応え開発しました。様々な水源から取水し、濁った水からでも水道水レベルの水をつくることのできる「移動する浄水場」として、各所で活躍しています。



令和6年能登半島地震での応急給水

2024年1月1日に発生した能登半島地震では、珠州市内において1月3日の出動要請を受けた2日後には給水を開始することができました。避難者はもちろん、同地区で活動していた自衛隊が設置した浴場の水として利用されるなど、地域の給水拠点として生活用水を提供しました。利用者からは「水が使えてうれしい」や「水の心配がなくなって安心した」等の喜びの声をいただきました。



地域の給水拠点 アクアレスキュー設置状況 自衛隊への給水

災害時のスムーズな支援対応を目指して 自治体や支援団体とのパートナー連携

キッツグループは、自治体や災害支援プラットフォームなどの災害支援団体と災害協定を締結しており、万が一の事態の際にもスムーズな支援活動が行えるよう、日々の連携強化に努めています。また、活動に必要な社内リソースを整備するなど、社内体制の構築にも取り組んでいます。



災害
支援団体
自治体



環境ソリューション
ビジネスユニット長
小林 利章

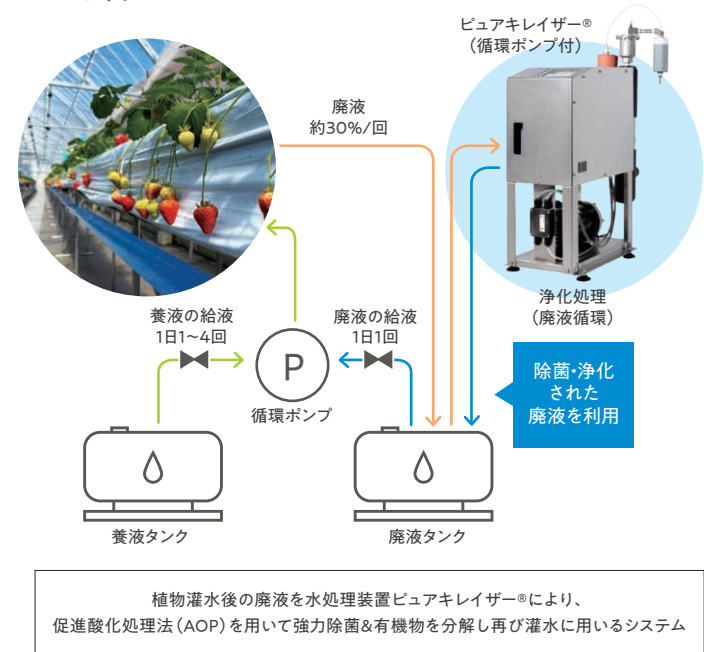
VOICE

自然災害の激甚化・頻発化を受けた防災の観点や、サステナビリティ・環境保全の観点から、安定的な水インフラの確保など「水」に関する社会課題が重要視されています。これらの課題解決に深く関わる私たちの使命は、単にきれいな水を抽出する製品を造り出すだけではなく、それらを通して地域の皆様が安心できる暮らしを守ること。この事業をキッツグループ内の新たなビジネスの柱とすべく、チーム一丸となって高みを目指して精進していきます！

■ 環境負荷の軽減

廃液ゼロのシステムを活用！ 養液の再利用で環境負荷を軽減

キッツグループでは、廃液ゼロ栽培システムの実証プラントとしてキッツ茅野工場にてイチゴの栽培をしています。栽培後に、使用した養液をタンクに貯め、この廃液をピュアキレイザー®により浄化し、浄化された廃液を再びイチゴの栽培ベッドに給液する「廃液ゼロ」栽培を実現しています。



■ 地域貢献・BCP対策

安全と安心を届ける 非常時にも備えた施設の活用

キッツ茅野工場内のイノベーションセンターでは、敷地内の地下水をキッツグループ製の地下水処理装置で浄化し、施設内で使用しています。これにより、災害などで水道が止まった場合でも安定した水供給の継続が可能です。また、茅野市と防災に関する協定を結んでおり、災害時には同センターを地域の避難所や給水所として開放します。有事の際には地域の皆様や社員にきれいな水と安心感を提供します。



地下水処理装置

TOPICS

より一層の取り組み推進のために…

キッツは積極的に水循環に資する取り組みを実施している企業として認められ、内閣官房水循環政策本部事務局の令和6年度「水循環企業登録・認証制度」の水循環ACTIVE企業として認証されました。



地球環境の保全への貢献 環境長期ビジョン 3ZERO

キッツグループでは、環境長期ビジョンで3つの環境テーマについてトリプルゼロ（「CO₂ゼロ」「環境負荷ゼロ」「リスクゼロ」）の目標を掲げ、各目標に向けて活動を推進しています。

2050年に向けカーボンニュートラルを目指し、持続可能な社会の実現に貢献します。

キッツグループは製造業を営む企業として、モノづくりを行う上で環境への配慮は不可欠であると考えています。工場では省エネパトロールの実施、電気の見える化、高効率機器の導入、照明のLED化など、省エネ活動を推進し、長年にわたってムダの排除に取り組んできました。近年では太陽光発電をはじめとした再生可能エネルギーの導入やLNGへの燃料転換を行うなど積極的な環境投資を実施しており、環境保全への取り組みをさらに加速させています。



人財総務本部
環境安全部
窪田 由美

VOICE

環境長期ビジョン 3ZERO

CO ₂ ゼロ 脱炭素の推進	環境負荷ゼロ 資源循環の推進	リスクゼロ 3防止（公害・労災・火災）	2030年度主要KPI目標
<p>2030年 ▲90%※</p> <p>2050年 ▲100% カーボンニュートラル</p>	<p>ウォーターニュートラル 節水、循環、涵養の推進</p> <p>ゼロエミッション 3Rの推進、鋳物砂再生利用の推進、梱包資材の配慮、ペーパーレス化の推進、グリーン調達</p> <p>汚染防止 脱VOC（塗料、塩素系溶剤）</p>	<p>環境事故ゼロ 環境汚染：0件（排水、VOCなど）</p> <p>労働災害ゼロ 重大事故：0件 休業度数率：0.10以下</p> <p>火災事故ゼロ 火災、爆発事故：0件</p>	<p>CO₂削減率 ▲90% ※海外を含むキッツグループでは▲50%</p> <p>廃棄物埋立処分率 1.0%未満</p> <p>水資源削減率 ▲100%</p>

※2013年度比、対象：国内グループ

※対象：キッツグループ

※対象：キッツグループ

※2013年度比、対象：国内グループ

CO₂フリー電力を 国内主要8拠点で導入

2022年以降、国内の主要製造拠点では使用する電力を再生可能エネルギーに切り替えており、そのうち、多くの拠点では長野県の豊富な水資源を最大限活用したCO₂フリー電力である「信州Greenでんき」を導入しています。年間35,693トン相当のCO₂排出量を削減しています。



年間CO₂ 排出量830トンもの削減が可能に 茅野工場にPPAモデル活用の太陽光発電を導入

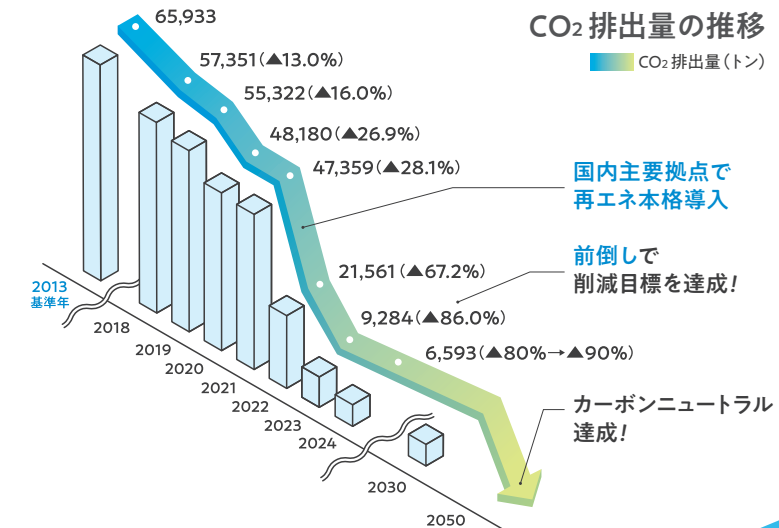
2024年11月、キッツ茅野工場ではオンサイト型PPAモデル※を導入し、工場の屋根上へ設置した太陽光パネル合計3,400枚で発電した電力を使用しています。パネルの容量は1,989kWで年間発電量は1,971MWhと想定されており、CO₂排出量を年間で約830トン削減することができます。なお、同様のPPAモデルによる太陽光発電は、グループ会社のキッツエスシーティー新田SC工場でも導入しています。



※PPA (Power Purchase Agreement) モデル：発電事業者が需要家の敷地内に太陽光発電設備を設置し、発電された電力を需要家に供給するサービス。

CO₂ 排出量・削減率の目標を 前倒しで達成

CO₂ 排出量の削減を図るため、CO₂ フリー電力への切り替えのほか、カーボンニュートラルガスの調達や高効率設備の導入など、キッツグループではあらゆる施策を講じています。これらの取り組みが功を奏し、2023年には、基準年の2013年度比で86.0%もの排出量削減を実現することができました。前倒しでの削減目標達成を受け、2024年以降の目標に上方修正を加え、さらなる高みに挑戦しています。今後は、製造工程等から排出されるCO₂ (Scope1・Scope2)削減のための活動に加え、当社の事業活動に関連する取引先から排出されるCO₂ (Scope3)の算定も行います。自社のみならず、サプライチェーン全体を見据えたCO₂ 排出量の低減活動にも取り組んでいきます。



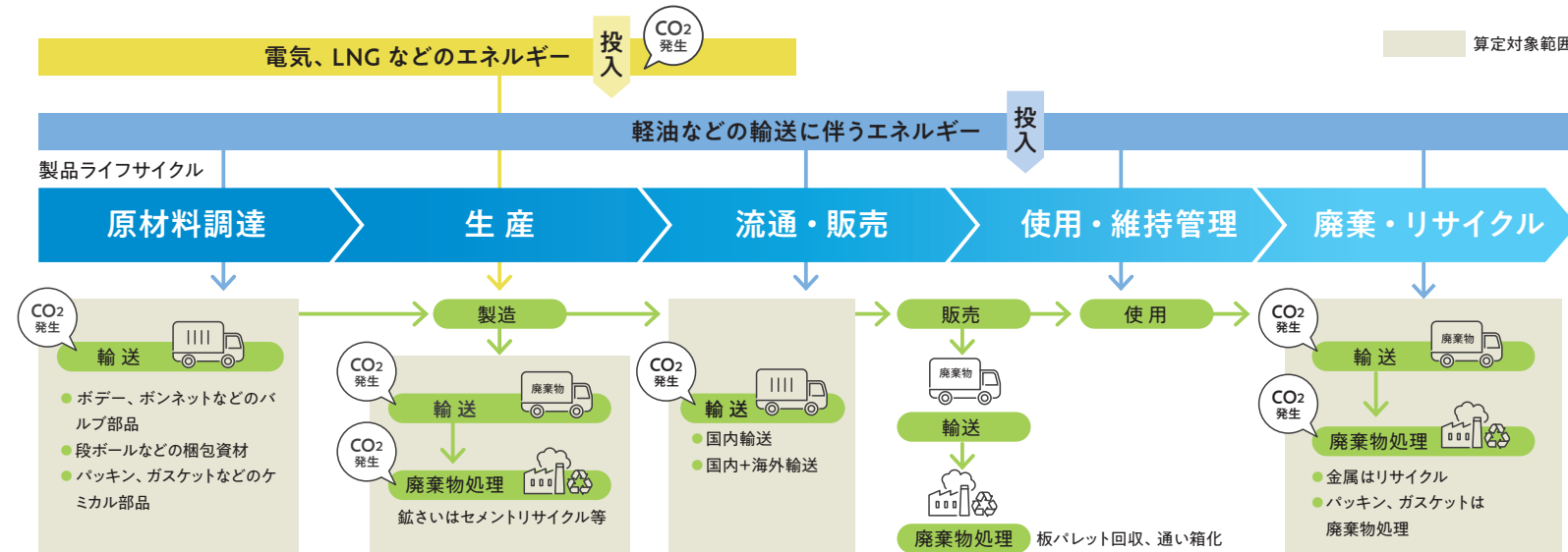
国内主要拠点で
再エネ本格導入

前倒しで
削減目標を達成!

カーボンニュートラル
達成!

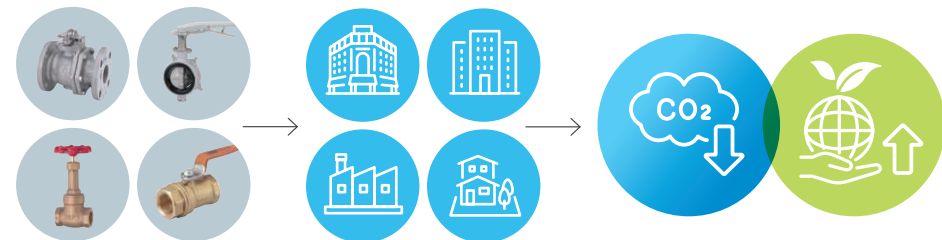
バルブ製造のCO₂排出量 | カーボンフットプリント

バルブ製品ライフサイクルの各過程で排出されるCO₂を定量的に可視化する「カーボンフットプリント」の算定に取り組み始めました。この取り組みは、急速に高まる気候変動対応の重要性を背景に、今後キッツがお客様に選ばれる一つの基準となることを見据え、準備を進めています。



製品CO₂排出量算定による環境価値向上への貢献

バルブ製品当たりのCO₂排出量を算定し開示することを検討しています。これまで製造工程からのCO₂排出量を削減してきた効果を、バルブ製品の環境価値向上に今後反映させていきます。



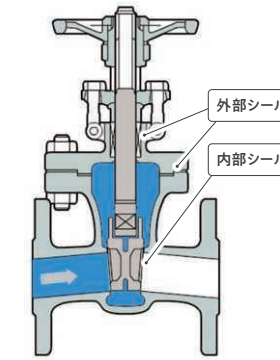
持続的な成長に向けた技術戦略

キッツグループでは、長期経営ビジョン実現に向けて、中長期の技術ロードマップを策定し、新たな製品やサービスの開発を推進しています。基盤技術を軸とし、成長市場をターゲットに見据え、新たな価値を提供することにより、さらなる企業価値の向上を目指しています。

シール技術の「深化」によるカーボンニュートラルへの貢献

バルブの核であり、水やガスなどの流体の流れを制御するシール技術は、低圧から超高压、極低温から高温の幅広い分野に展開されています。外部漏れを確実にシールする技術を深化させ、ISOやAPIの国際規格に準拠した性能を満たす製品の拡充によりフュージティブエミッション※を防止し、温室効果ガスやVOCの排出抑制に貢献します。

※フュージティブエミッション(Fugitive Emission): 大気中へのガスや蒸気の排出物漏えい、または望ましくない放出のこと。



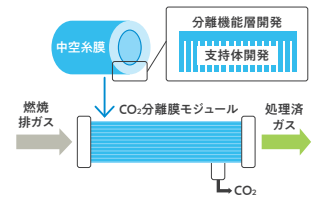
開発設計部
開発設計第一グループ長
小林 哲也

VOICE

私たちは、材料選定や工法の改良、設計の最適化などを通じて環境負荷の低減に取り組み、ライフサイクル全体を考慮したバルブの設計・開発を進めています。特に、私が深く関わっている高性能シール技術の追求は、バルブの外部漏れに対する要求が高まる中、持続可能な未来を支える重要な使命です。環境価値の向上に寄与し、長く安心して使える製品づくりを目指し、これからも挑戦を続けていきます。

分離・浄水技術の「進化」による地球温暖化防止への貢献

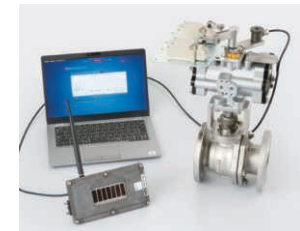
グループ会社のキッツマイクロフィルターでは、浄水器などの開発により培った独自の中空糸膜技術※を発展させ、CO₂分離膜モジュールの開発を行っています。燃焼排ガスなどからCO₂を分離・回収することで、地球温暖化抑制に取り組んでいきます。



※中空糸膜技術: 細いストロー状の中空繊維を利用した膜分離技術のこと。液体や気体のろ過・分離・精製に用いられる。

IoTやAIを活用した故障予知技術による持続的な社会の実現

工場やプラントの予期せぬ停止は、お客様のみなならず社会経済にも大きな損失を与えてしまうため、未然に防止しなければなりません。キッツではIoTやAIなどのデジタル技術を用いたバルブの状態把握・故障予知技術により、異常やトラブルを未然に防止します。



環境規制に対応した素材技術による循環型社会の実現

グループ会社で伸銅品の製造・販売を行うキッツメタルワークスでは、環境規制や飲料水の溶出規制に対応するため、鉛フリーやカドミウムレスの黄銅棒を開発・製造しています。これらの黄銅棒は高いリサイクル性を有しているため、循環型社会の促進に貢献します。



選ばれ続ける企業を目指す 未来をひらく人材力の強化

KITZ Group Engagement Forum

長期経営ビジョンの社内浸透イベント

エンゲージメントフォーラムとは、河野社長をはじめとした経営陣が国内外の事業所を直接訪問し、社員と対話を行うイベント。キッツグループが目指す姿の共有や、共感の醸成を目的とした取り組みです。2022年の開始以降、開催回数は累計100回を突破しました。社員にとっては会社の戦略を知り、業務との連動性を理解する機会となり、働きがい向上につながっています。対話の中では社員が自由かつ活発に質問・意見でき、協同参加する労働組合代表幹部とも意見交換する事例もあります。

キッツグループは、多様性を尊重し、社員一人ひとりの人材力を高めていきます。働きがいと働きやすさを高め、社員自らが小さな変革を起こすための企業文化の醸成に取り組み、人材と会社の成長を実現します。



河野社長の想い

「第1期中期経営計画の開始とともに定期的にエンゲージメントフォーラムを開催しています。工場やグループ会社を訪問してキッツグループの方向性を直接説明するなど社員との対話を積極的に続けてきました。この対話を通じて社員から上げられた改善要望にも対応し、働く環境の改善に努めていきます。」



参加者の声
エンゲージメント向上の重要性とそれに対する会社の本気度を感じました。



参加者の声
社長ご自身の言葉で伝えていただき、腹落ちできました。



参加者の声
「社員の意見を聞くぞ」という意思表示になっており素晴らしい取り組みだと思います。



参加者の声
対面での参加で社長の熱量をとっても感じました。

多様な人材が活躍できる企業へ キッツグループのDE&I推進活動

キッツグループでは、長期経営ビジョンの達成に向け、多様な人材が活躍する企業を目指しています。その一環として、4つの個別課題を軸にDE&I活動を推進しています。



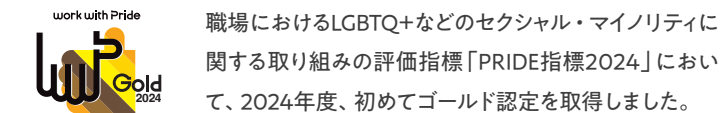
DE&I方針

キッツグループは、経営上重要な戦略の一つとして、DE&I(ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン)を推進します。社員の仕事へのやりがいや多様な価値観・意見により、「個」の創造性を高め、「組織力の最大化」を図ります。そして、持続可能な社会へ貢献します。

※ DE&I: Diversity (ダイバーシティ、多様性)、Equity (エクイティ、公平性)、Inclusion (インクルージョン、包摂性/受容)の頭文字からなる略称。

LGBTQ+への理解促進

「PRIDE指標[※]2024」でゴールド認定を取得



※「PRIDE指標」: 任意団体「work with Pride」が2016年に策定した、日本初の職場におけるLGBTQ+への取り組みの評価指標。

同性パートナーシップ制度の導入

2024年度、戸籍上は同性である二人に対し、婚姻と同等のパートナーシップ関係であることを承認し、配偶者と同様に規程や福利厚生を適用できる制度を導入しました。この制度の導入に伴い、規程や福利厚生制度(就業規則や転勤赴任、慶弔見舞金、慶弔休暇など)の改訂も行いました。



人財総務本部
人財グループ
角川 雄基

VOICE

同性パートナーシップ制度の導入にあたり、制度設計や規程改訂などを担当しました。人財マネジメントや多様な働き方への関心が高まる中で、あらゆる社員が活躍できる土壌の構築はとても重要です。多様性を受容・尊重し合える風土の醸成や、自分らしく活力を持って働くことができる環境を生み出し守ることが、生産性の向上やイノベーションの創出につながると感じています。

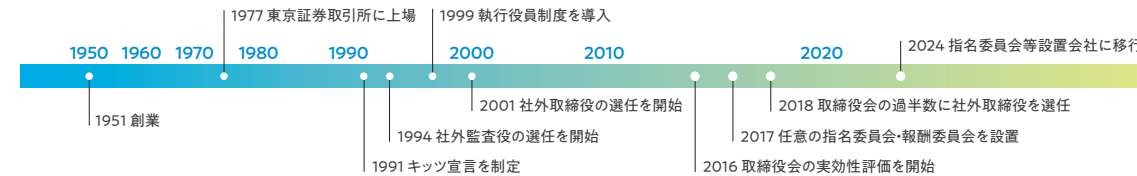
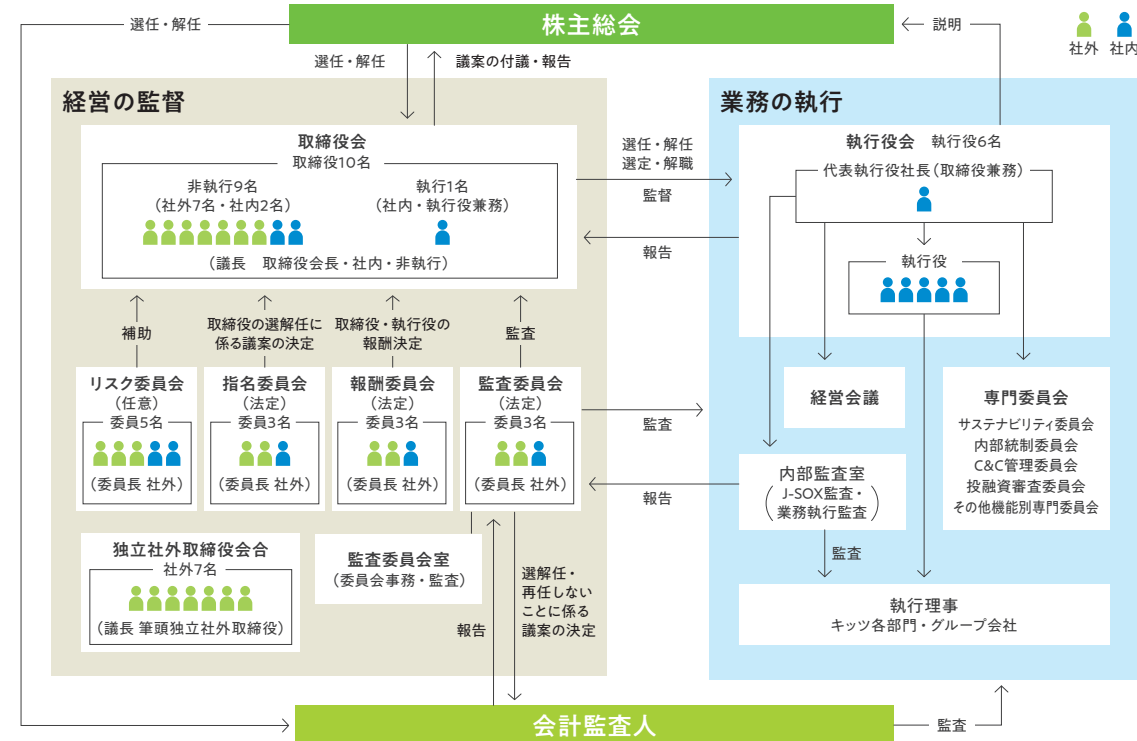
コーポレート・ガバナンスの強化に向けた取り組み

キッツグループは、ステークホルダーの皆様からの信頼と共感をより一層高めるため、持続的な成長による企業価値と社会価値の向上を支える経営基盤を強化するとともに、経営の遵法性、透明性、健全性及び効率性を高める体制を整備・運用しています。

指名委員会等設置会社への移行

当社は、2024年3月に「指名委員会等設置会社」へ移行しました。右図の通り、経営の監督機能と執行機能を明確に分離し、取締役会の監督機能を強化するとともに、取締役会から執行役へ大幅な業務執行の権限を委譲することにより、経営の意思決定のスピード向上を図っています。

さらに、取締役10名のうち7名の独立社外取締役(女性の取締役2名)を選任しており、職歴、経験及び知識等のバックグラウンドが異なる多様な取締役で構成しています。

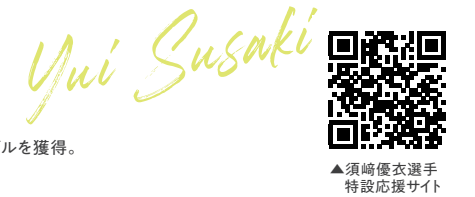


キッツは須崎選手と共にさらなる高みを目指してまいります。



2022年4月、レスリング女子の須崎優衣選手がキッツに入社しました。須崎選手は2023年に世界選手権にて優勝し、パリオリンピックのレスリング女子50キログラム級日本代表に決定。見事に銅メダルを獲得しました。今後も世界の頂点を目指して挑戦を続けます。キッツは、高い目標に向かって努力する須崎選手の競技活動を支援しています。

須崎優衣(すさきゆうい)選手
レスリング女子50キログラム級
父の影響で7歳からレスリングを始める。
早稲田大学在学中に東京オリンピックで金メダルを獲得。



▲須崎優衣選手 特設応援サイト

